

## 浅草に吹いた颯爽たる武の風

令和8年4月18日、浅草の「台東リバーサイドスポーツセンター」で、「日本古武道振興会」による「浅草第44回日本古武道大会」が開催され、本連盟からも宗家以下総勢7名が出場した。例年好天に恵まれるが、本年もよく晴れて、近くに東京スカイツリーがよく見えた。

女子護身術は捕りを宮川悦子四段、受けを三田篤五段が務めた。非力の女子が大の男を翻弄する、女子護身術の要諦を流れるように演武して、観客の心を捉えた。



中山雄介六段とロヒヤ・ファンデルフェルデ三段が演じたのは、組手形である。総計三十六本で和道流の勝口の総てを表現するという高度な術理だが、その冒頭数本を演武して、術理を過たなかった。



押田良光八段は三田五段を相手に、基本組手から応用変化する理合を体現して見せた。攻撃を流し、往なし、そして崩しから制圧まで、逃れるすべのない技法であった。



大塚博紀最高師範に短刀で挑んだのはロヒヤ三段である。短刀捕は手順が決まっているとはいえ、間合いを間違えれば大怪我をする、それが武道の演武である。無心で掛ったか、必殺の気で掛ったか、ロヒヤ三段の攻撃は見事に捌かれ、制せられた。



最後は真剣白刃捕だった。定寸より長い二尺四寸三分の太刀を遣うのは寺田英視八段、間積りが難しい白刃捕に加えて長い太刀である、困難はなお増すが、大塚博紀最高師範は、悠々閑々、絶妙の捌きと崩しで、太刀は全て空を斬った。



四十九流派が参加した本大会で、和道流の術理は精妙で、演武も的確にそれを表現していたと、賞讃の言葉があったことも付け加えておこう。しかし、それに甘んじることなく、更に精進を重ねて行かなければならない。



浅草第四十四回

# 日本古武道大会

日時 令和八年四月十八日(土)午後十二時半より  
場所 台東区パライオサイドスポーツセンター  
主催 日本古武道振興会  
後援 東京都台東区